

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 杏林学園  
理事長 松田博青

杏林大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第(昭和23年法律第205号)12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	112人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	309人	343人	580.1人	看護業務補助	7人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	2人	2人	2.1人	理学療法士	19人	臨床	臨床検査技師	98人
薬剤師	51人	0人	51.0人	作業療法士	7人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	19人	検査	その他	0人
助産師	90人	1人	90.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看護師	1,308人	4人	1,310.9人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	8人	
准看護師	3人	0人	3.0人	栄養士	0人	その他の技術員	9人	
歯科衛生士	0人	1人	0.4人	歯科技工士	0人	事務職員	88人	
管理栄養士	13人	1人	13.9人	診療放射線技師	58人	その他の職員	8人	

- (注) 1 報告を行う当該年度10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	831.3人	0人	831.3人
1日当たり平均外来患者数	2,160.2人	30.2人	2,190.4人
1日当たり平均調剤数	1,774剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間実外来診療日で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	2 人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	1 人
前眼部三次元画像解析	110 人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であつて、HER2が陰性のものに限る。)	0人
神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法 神経症状を呈する脳放射線壊死(脳腫瘍又は隣接する組織の腫瘍に対する放射線治療後のものに限る)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入			
医療技術名	骨髄移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 急性リンパ球性白血病に対する骨髄移植			
医療技術名	光トポグラフィー	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 大脳に近赤外光をあてて脳の活動状況をリアルタイムで計測する。レビー小体型認知症の患者を中心に少数例検討を行い、同疾患の易転倒性との関係を調べた。			
医療技術名	大動脈瘤ステンドグラフト移植術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ハイリスクの胸部または腹部大動脈瘤症例に対し、カテーテル法により動脈内にステンドグラフトを留置し、瘤破裂の予防を行う。			
医療技術名	胸部大動脈瘤手術時オープンステント	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 下行大動脈に及ぶ弓部大動脈瘤置換術において、術野用ステンドグラフトを末梢側に挿入し、深部での末梢吻合を省略して、侵襲の軽減を行う。			
医療技術名	人工血管を使用した血液透析用内シャント	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 血液透析用内シャントは患者の静脈の性状に左右される。適切な静脈がない場合でも最近開発された人工血管を使用することにより、血液透析が円滑に施行されるようになった。			
医療技術名	ウマ・ウシ心膜を用いた大動脈置換術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 感染症大動脈瘤に対して、人工血管は異物であり感染の再発率も高い。これに代わって、ウマ、ウシ心膜をロール状にして置換術を行うことにより再発を防止する。			
医療技術名	赤外線凝固器を用いた心臓凝固	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 心臓腫瘍の切除後残存腫瘍細胞や、感染性心内膜炎手術時の残存膿瘍、細菌に対して、赤外線熱焼灼を行うことにより治療の根治性をより高める。			
医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者に対する心肺蘇生療法として行っている。			
医療技術名	骨盤骨折に対する集学的治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 骨盤内血管損傷に対するTAEと創外固定器装着によるDCO			

医療技術名	腹部実質臓器損傷に対するIVR(侵襲的放射線学的治療)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
TEAにより止血し開腹手術を回避、腹部実質臓器の温存を図る。			
医療技術名	重症顔面外傷に対する急性期の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
緊急気道確保(輪状甲状靭帯切開、気管切開を含む)を行い、呼吸の早期安定を図る。			
医療技術名	間接熱量計を応用した重症患者の栄養管理	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
主に重症熱傷患者に応用し適切な栄養管理を施行。			
医療技術名	経皮的心肺補助療法(PCPS)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
目撃者のある心肺停止患者や重症心原性ショックに対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	重症上部消化管出血に対する内視鏡的クリップ止血術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
潰瘍底部の露出血管などの出血部位に内視鏡的にクリップをかけ止血を図る。			
医療技術名	経皮的動脈遮断術を利用した重症外傷治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
腹腔内や後腹膜腔出血を一時的に制御し、IVRや開腹手術にて止血を図る。			
医療技術名	食道静脈瘤硬化治療法、食道静脈結紮術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
食道静脈瘤に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的胃粘膜切除術	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
胃腫瘍(胃がん、胃腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的逆行性膵胆管造影	取扱患者数	459人
当該医療技術の概要			
膵管、胆管を造影し、診断する(その後ドレナージなどの治療を行う)			
医療技術名	腹腔鏡下肝生検	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡にて肝臓を観察、その後針生検を行う			
医療技術名	肝動脈化学塞栓術	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要			
肝細胞癌に対する治療 栄養血管をつめ、そこから抗がん剤の投与を行う。			

医療技術名	超音波下局所療法(経皮的エタノール局注療法、ラジオ波焼灯療法)	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 肝細胞がんに対する局所療法			
医療技術名	内視鏡的大腸粘膜切除術	取扱患者数	360人
当該医療技術の概要 大腸腫瘍(大腸がん、大腸腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD, PTGBD)	取扱患者数	84人
当該医療技術の概要 閉塞性黄疸などに対する経皮的治療			
医療技術名	抗神経抗体測定	取扱患者数	510人
当該医療技術の概要 神経組織に対する自己抗体を測定し、神経疾患の早期診断を行う。			
医療技術名	選択的子宮動脈塞栓術(産褥異常出血)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 血管造影にて出血部分位の出血部位を同定し同動脈を選択的に塞栓し止血。末梢での塞栓が可能のため子宮の血流の減少率が高い。また血管造影により出血部位の同定がしやすいこと、止血が成功した場合は妊孕性の温存が可能かつ手術的な侵襲が回避できる。			
医療技術名	両総腸骨動脈バルーン閉塞下帝王切開術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大量出血が予期される帝王切開術前に両側総腸骨動脈をバルーンカテーテルで閉塞し、切開術中の出血量のコントロールを行う手技。			
医療技術名	胎児胎盤MRI検査	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 胎児:胎児期に形態学的早予が疑われる症例に対し超音波に引き行われる。頭蓋内、胸腔内、腹腔内、疾患に行う。胎盤:帝王切開時のリスク回避に際し行う。			
医療技術名	重症薬疹におけるウイルス再活性化の関与の検討	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 全血、唾液中のウイルスDNA、血清ウイルス抗体価の変動を確認し、その結果を治療に反映させている。			
医療技術名	特定薬剤による重症薬疹患者のHLAタイピングの検討	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 特定薬剤による重症薬疹患者の発症にはHLAタイプが関与していることが知られてきている。我々は他施設との共同研究で特定薬剤により発症した重症薬疹患者のHLAタイプを調べることで、重症薬疹に発展する可能性の多寡があらかじめ推測できないかどうかの検討を進めている。			
医療技術名	難治性好中球性皮膚症患者に対する積極的治療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ウイルス感染に基づくと考えられる難治性好中球性皮膚症患者に対し、従来のステロイドパルス療法に加え大量免疫グロブリン静注療法のコブネーションセラピーを積極的に行っている。			
医療技術名	悪性脳腫瘍の化学療法における薬剤耐性関連遺伝子解析	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 手術中に得られた組織からPCR法などを用いたメチル化分析、FISHやシーケンス法を用いた遺伝子変異解析などにより薬剤耐性関連遺伝子を解析し、腫瘍に対する抗腫瘍薬の感受性をいる事が出来る。これに基づき抗腫瘍薬を使用することにより、より高い効果を得て、副作用を避けることはできる。			

医療技術名	脳腫瘍手術における5アミノレブリン酸とマルチモダリティナビゲーションシステム	取扱患者数	約50人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍の初期治療においては手術が最も一般的であり、摘出率が生命予後に関わる。一般的に同手術は境界不明瞭で手術の難易度は高いとされるが5ALAとMRI、PET等を融合させたナビゲーションシステムを使用することにより安全に摘出率を高めることができる。			
医療技術名	神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 脳腫瘍治療において放射線治療は一般的な治療であるが、治療後の合併症としてしばしば放射線壊死を伴う。著明な脳浮腫を伴い、神経症状を悪化させるが、ベバシズマブの投与にて病態制御を図ることができる。			
医療技術名	巨大脳動脈瘤に対する血行力学的縮小療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 直進手術下の動脈瘤頸部閉塞が困難な血栓化巨大脳動脈瘤に対して、動脈瘤には操作を加えずに流入血液量を減らし、また分枝をバイパス構築ののち近位側閉塞も加えることで流出血液量も減少させることで、高難度病変に対して侵襲度の低い新たな治療を開発し実践している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要 早期前立腺癌に対してダヴィンチを用いたロボット手術			
医療技術名	腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 精巣癌の後腹膜リンパ節転移に対する治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腎動脈をクランプし腎腫瘍部位内のみを切除する治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎摘除術	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 腎腫瘍に対して行う治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎尿管全摘術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 腎尿管腫瘍に対して行う治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腎盂尿管狭窄に対しての手術			
医療技術名	早期前立腺癌に対する密封小線源を用いた根治的放射線治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 I125(ヨウ素)密封小線源を前立腺内部に埋没させ照射範囲を局限し副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的とする			
医療技術名	HoLEP	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要 前立腺肥大症に対して経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術			

医療技術名	CSII	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
インスリンポンプを皮下に持続的に入れて、基礎インスリンを補う治療法で特に1型糖尿病患者により適応となる			
医療技術名	CGM	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
血糖測定用の針を皮下に留置し、持続的(5分おき)に、血糖を測定する。血糖の日内変動を知る上で有用な手段である。			
医療技術名	次世代シーケンサーによる難聴遺伝子の解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
難聴の遺伝子解析は現在保険診療として10遺伝子を調べることが可能である。当院の担当科では多施設との共同研究として84遺伝子調べる事が可能である。また、ヒト全遺伝子(約2万個)全体の解析による新原因遺伝子の発見も試みている。			
医療技術名	口腔、咽頭癌に対するセンチネルリンパ節生検術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
画像診断で「頸部リンパ節転移なし」と診断された症例の中に微小な転移を来したケースが含まれていることがわかっておりより精度に高い検査法が必要とされてきた。本法は他施設と共同でより正確な早期癌リンパ転移のために開発された新しい方法である。			
医療技術名	放射性同位元素Sr89:ストロンチウムを用いた癌性疼痛	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
$\beta$ 線(ベータ線)を放出する放射性同位元素Sr89(ストロンチウム)を用いて悪性腫瘍骨転移による疼痛緩和を目的とする			
医療技術名	対外的根治強度変調放射線治療	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
腫瘍病巣に標的を絞り多方向照射野に対し高エネルギーX線照射線量の強弱をつけ治療を行い副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的とする(IMRT法:強度変調放射線療法)			
医療技術名	enhanced depth imaging-optical coherence tomography (EDI-OCT)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
原田病の患者に対して通常の検査に加えてEDI-OCT画像から脈絡膜厚を測定し、副腎皮質ステロイド治療に対する反応性の評価を行う。			
医療技術名	PCR法を用いた眼内サンプルの解析	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
感染性ぶどう膜炎の原因検索のため、前房水や硝子体液を検体としてpolymerase chain reaction (PCR)を行い原因菌、ウイルスを同定する。			
医療技術名	眼内悪性リンパ腫に対するmethotrexate硝子体内投与	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
眼内悪性リンパ腫に対して全身化学療法の補助療法として眼内(硝子体内)にmethotrexateを投与することで腫瘍を退縮させる。眼部放射線療法に比較して副作用は軽度であり、繰り返し投与可能であることなど多くの利点がある。			
医療技術名	先天性心疾患に関する超音波検査	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要			
先天性心疾患が疑われる症例に対し、胎児循環器疾患の専門的知識を有する医師のチームが確定診断を行う。			
医療技術名	胎児MRI検査	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
胎児期に形態学的早予が疑われる症例に対し超音波に引き行われる。特に頭蓋内、胸腔内疾患に行う。			



医療技術名	胎児胸腔穿刺及び胎児胸腔-羊水腔シャント造設術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
胎児胸水等の胸腔内占拠性病変に対し性状の確認および肺低形成防止の為の胎児治療			
医療技術名	癒着胎盤例に対する腸骨動脈塞栓バルーン留置下妊娠子宮摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
腸骨動脈にocclusion Balloonを留置後に癒着胎盤例の帝王切開を行い、同時に子宮摘出術を行う			
医療技術名	習慣性流産に対するヘパリン自己皮下注療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
習慣性流産例にヘパリン自己皮下注法の指導を行い妊娠継続する			
医療技術名	腹腔鏡下手術(卵巣嚢腫手術、子宮筋腫、子宮内膜症)	取扱患者数	139人
当該医療技術の概要			
仰臥位。腹部に小さな穴を数か所あけ、腹腔内を炭酸ガスで膨らませ術野を確保。穴からは腹腔鏡や器具を挿入し、中の様子をモニターで確認しながら腫瘍のみを摘出			
医療技術名	子宮鏡下手術(粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープ、卵管再疎通術)	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要			
経腔的に子宮の中に内視鏡を入れて、子宮内にできている筋腫やポリープを切除する方法			
医療技術名	選択的子宮動脈塞栓術(産褥異常出血)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
血管造影にて出血部位の同定出血部位を同定し同動脈を選択的に塞栓し止血。末梢での塞栓が可能のため子宮の血流の減少率が高い。また血管造影により出血部位の同定がしやすいこと、止血が成功した場合は妊孕性の温存が可能かつ手術的な侵襲が回避できる。			
医療技術名	凍結受精卵移植	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要			
凍結保護剤を用いて液体室素で凍結保存した受精卵を使用。母体月経周期の調整や着床に適したホルモン環境を整え、融解後しばらく培養した上で、受精卵の最終的な状態を確認して胚移植を検討したのち移植する。			
医療技術名	顕微授精	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
人工授精が出来ない場合や妊娠できなかった場合に卵子と精子を体外に取り出し、体外受精させ受精卵が8細胞くらいに分割した段階で子宮に戻す方法。			
医療技術名	性器脱メッシュ法手術	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
下がった臓器と膈壁との間に、伸びない素材(高強度のポリプロピレン線維)を入れて壁をつくる術式。子宮を温存、膈壁切除もしないので術後に膈の状態が本来の自然な形態に復帰。術後のQOLの向上を考慮した手術法			
医療技術名	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
5-12mmの小切開による腹腔鏡下に手術を行う			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	51人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	27人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	69人
・全身性エリテマトーデス	242人	・重症急性膵炎	11人
・スモン	人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	48人
・サルコイドーシス	137人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・特発性間質性肺炎	21人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	137人	・網膜色素変性症	42人
・特発性血小板減少性紫斑病	48人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	1人	・肺動脈性肺高血圧症	59人
・潰瘍性大腸炎	96人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	12人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	35人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	30人
・脊髄小脳変性症	12人	・ライソゾーム病	人
・クローン病	34人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	45人
・悪性関節リウマチ	3人	・脊髄性筋委縮症	人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	308人	・球脊髄性筋委縮症	1人
・アミロイドーシス	24人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・後縦靭帯骨化症	37人	・肥大型心筋症	36人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	43人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	20人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	3人	・黄色靭帯骨化症	44人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	142人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫、又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の 同定と転移の検索	・
・膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した 症例検討会の開催頻度	概ね1週間に2回 概ね1か月に9回
部 検 の 状 況	部検症例数      29例      /      部検率      2.90%

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性血管炎に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 2,100	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
進行性腎障害に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 1,400	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ぜん息患者の増悪及び未発症成人の発症の予測のための気道バイオマーカーの確立とその大気汚染物質の影響評価への応用に関する調査研究	滝澤 始	内科学(I)	千円 5,100	補 委	独立行政法人環境再生保全機構 公害健康被害予防事業
ANCA関連腎炎発症における好中球細胞外トラップおよび相補的MPOの役割の解析	駒形 嘉紀	内科学(I)	千円 900	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Densitometryを用いた肺胞蛋白症における高分解能CT所見の意義	石井 晴之	内科学(I)	千円 1,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性希少肺疾患(肺胞蛋白症、先天性間質性肺疾患、オスラー病)に関する調査研究	石井 晴之	内科学(I)	千円 1,400	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
呼吸器感染症が慢性炎症を増悪させる分子病態の解明:異型肺炎とCOPD	和田 裕雄	内科学(I)	千円 1,500	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細菌性肺炎で抗G-CSF自己抗体が好中球機能を制御するメカニズムの解析	渡辺 雅人	内科学(I)	千円 1,300	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺静脈閉塞症(PVOD)の診断基準確立と治療方針作成のための統合研究	佐藤 徹	内科学(II)	千円 250	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
患者会を中心とした肺高血圧症の前向き症例登録研究の開発と予後調査	佐藤 徹	内科学(II)	千円 2,500	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
個別化医療を目指した難治性循環器疾患である肺動脈性肺高血圧症の遺伝子解析	片岡 雅晴	内科学(II)	千円 1,500	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
心機能障害患者における自動車運転中の失神および不整脈リスクの検討および病態の解明:自律神経活動や心電学的アプローチによる検討	三輪 陽介	内科学(II)	千円 1,000	補 委	JA共済 交通事故医療研究助成
肺高血圧症における自律神経活動指標を用いたリスク層別化	三輪 陽介	内科学(II)	千円 50	補 委	日本私立学校振興・共済事業団 学術研究振興資金
Heart rate turbulence can predict cardiac mortality following myocardial infarction in patients with diabetes mellitus	三輪 陽介	内科学(II)	千円 50	補 委	公益財団法人福田記念医療技術振興財団 研究助成金論文等表彰事業
2型糖尿病の発症に果たす膵ラ氏島内マクロファージ浸潤の役割とその分子機構の解明	石田 均	内科学(III)	千円 700	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 8,077	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 400	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 900	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
杏林大学におけるがん研究基盤の形成	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 16,000	補 委 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究	長島 文夫	内科学(腫瘍科)	千円 7,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
加齢に伴う血管病変に対するアミノ酸トランスポーター標的療法の探索研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に関する研究事業	神崎 恒一	高齢医学	千円 12,934	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する教育システムの構築に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 2,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者に対する適切な医療提供に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 800	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験-	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者における加齢性筋肉減弱現象(サルコペニア)に関する予防対策確立のための包括的研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,180	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 3,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者の慢性疾患に伴う低栄養・サルコペニアの評価に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,100	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
加齢・認知度における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,500	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
在宅医療支援診療病棟を中心とした地域在宅医療活性化についての検討及び多職種協働による在宅患者への介入の有効性	神崎 恒一	高齢医学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
			2,000		
認知症患者における介護負担測定方法の研究	神崎 恒一	高齢医学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
			1,000		
近赤外線スペクトロスコピーを用いた認知症周辺症状の臨床評価	長谷川 浩	高齢医学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			600		
高齢者の認知機能低下に対する、心機能の向上を介した新規治療概念の構築	長谷川 浩	高齢医学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
			1,000		
睡眠薬の適正使用及び減量・中止のための診療ガイドラインに関する研究	中島 亨	精神神経科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			200		
感染・炎症による脳室周囲白質軟化症の病態と治療に関する研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			800		
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			8,820		
先天性サイトメガロウイルス感染症対策のための妊婦教育の効果の検討、妊婦・新生児スクリーニング体制の構築及び感染新生児の発症リスク同定	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			700		
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			1,600		
糖質ステロイド代替薬の創薬	楊 國昌	小児科学	千円	補 委	日本私立学校振興・共済事業団 大学間連携等による共同研究
			6,000		
ネフローゼの病態における脱ユビキチン化酵素USP40の関与	西堀 由紀野	小児科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			700		
ネフローゼ症候群における糖質ステロイド感受性機構の解明	西堀 由紀野	小児科学	千円	補 委	公益財団法人母子健康協会 小児医学研究助成
			1,500		
ヒストンメチル化酵素NSD3の機能解析-腎臓発生におけるEpigeneticsの役割-	伊藤 雄伍	小児科学	千円	補 委	公益財団法人森永奉仕会
			600		
難治性膵疾患に関する調査研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			700		
膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			500		

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胆道がん切除後補助療法の標準治療確立に関する研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	国立がん研究センター がん研究開発費
			500		
高齢者術後せん妄に対する予防法・治療法の標準化に関する研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
			1,000		
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	正木 忠彦	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			400		
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	正木 忠彦	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			500		
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	呉屋 朝幸	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			400		
QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究	井本 滋	外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			2,400		
小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成	菑澤 融司	小児外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			600		
ウェーブレット解析に基づく心電図波形の高精度識別システムの構築	山口 芳裕	救急医学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			200		
中枢神経系悪性リンパ腫の遺伝子異常解析による病態と治療向上因子の解明	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,200		
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			400		
包括的脳卒中センターの整備に向けた脳卒中の救急医療に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			400		
加齢・認知度における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
			3,000		
悪性神経膠腫に対する新規抗EGFR抗体・抗癌剤併用による治療法の開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			900		
稀少悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同試験	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	国立がん研究センター がん研究開発費
			600		
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	文部科学省 次世代がん研究戦略推進プロジェクト
			1,000		

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
仮想現実による頭皮投影型新規脳手術ナビゲーションシステムの開発	丸山 啓介	脳神経外科学	千円 1,800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
悪性神経膠腫におけるIDH遺伝子異常の生物学的意義の解明	田中 雅樹	脳神経外科学	千円 1,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	市村 正一	整形外科	千円 500	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	望月 一男	整形外科	千円 190	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ヘルペスウイルスが引き金をひく炎症性疾患におけるパトロール単球の役割	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 10,800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 55,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
重症薬疹における制御性T細胞の機能低下を回復させる試み	狩野 葉子	皮膚科学	千円 800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
患者支援に基づくSJS/TEN後遺症の発症予防と治療法の確立	狩野 葉子	皮膚科学	千円 1,300	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
神経ペプチドのIgE依存性アレルギー反応に対する調節作用の解析	水川 良子	皮膚科学	千円 1,400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
顔面神経麻痺治療用埋め込み型随意筋電誘発機能的筋刺激装置の開発	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ティッシュエキスパンダーによる乳房再建	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 750	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
皮膚潰瘍に存在する間葉系細胞からの表皮誘導法の開発	栗田 昌和	形成外科学	千円 2,700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
増殖因子を用いた新しい瘢痕治療の開発	江藤 ひとみ	形成外科学	千円 1,500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
進行性腎障害に関する調査研究	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	千円 2,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
多発性嚢胞腎の細胞マトリックス接着応答とエピジェネティクス修飾による治療法の研究	東原 英二	泌尿器科学	千円 100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
治験の実施に関する研究 [ブリリアントブルー-G250]	平形 明人	眼科学	千円	補 委	社団法人日本医師会治験促進センター 治験推進研究事業
			500		
読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上-経網膜電気刺激(STS)法)の実用化	平形 明人	眼科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			1,000		
マイクロRNAを標的としたベーチェット病における抗TNF抗体治療の分子機序の解明	岡田 アナベル あやめ	眼科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,600		
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	岡田 アナベル あやめ	眼科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			1,000		
マイクロRNAを標的とした難治性網膜ぶどう膜炎の炎症制御の可能性	慶野 博	眼科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,300		
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	渡邊 交世	眼科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			2,000		
広域における摂食・嚥下ケアの医療安全および質保証のための総合的管理システムの開発	甲能 直幸	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			900		
新規抑制レセプターSIGLEC-2および-6による扁桃炎の分子メカニズムの解明	唐帆 健浩	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			50		
癌・精巢抗原TBX101を分子標的とした頭頸部癌ミサイル療法の開発	横井 秀格	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			300		
蝸牛内完全埋込み型人工コルチ器作製へむけた人工シナプス形成を確立するための研究	横井 秀格	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			500		
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	増田 正次	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			800		
口腔癌の顎骨浸潤抑制に対してmTOR・COX-2による新たな治療法の開発	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			529		
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	藏口 潤	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,600		
プラズマによる細胞/組織の活性化・改善及び再生医療への応用展開	永藤 裕	耳鼻咽喉科学	千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
			71		
グラム陰性菌のV抗原及びその相同タンパクに対する血清疫学調査	岩下 光利	産科婦人科学	千円	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
			1,800		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ラット神経因性疼痛モデルの完成度評価	森山 潔	麻酔科学	千円 250	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
JAK2遺伝子スプライシング異常をもつ新規症候群の発症メカニズムの解明	森山 久美	麻酔科学	千円 500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生活習慣病の病勢や発症の危険性を超音波の新技术により画像的・定量的に評価する試み	大西 宏明	臨床検査医学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
入院患者を対象とした効果的な禁煙支援診療に関する研究	岸野 智則	臨床検査医学	千円 1,600	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
入院患者を対象とした効果的な禁煙支援診療に関する研究	野村 英樹	総合医療学	千円 500	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
高齢者慢性疾患のケアに対する汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療の臨床的有効性	本間 聡起	総合医療学	千円 2,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
片麻痺と運動失調症の三次元書字運動解析—習熟運動と巧緻運動	岡島 康友	リハビリテーション医学	千円 500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳卒中片麻痺者に対する下肢痙縮抑制足底板の標準化と効果の検証	高橋 秀寿	リハビリテーション医学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体異常のある子どもの保育—心疾患の影響—	赤木 美智男	医学教育学	千円 150	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Infect Chemother	Usefulness of linezolid in the treatment of hospital-acquired pneumonia caused by MRSA: a prospective observational study.	後藤 元	内科学(I)
Steroids	The effect of water loading on the urinary ratio of cortisone to cortisol in healthy subjects and a new approach to the evaluation of the ratio as an index for in vivo human 11 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase 2 activity.	山田 明	内科学(I)
Clin Exp Nephrol	Expression of matrix metalloproteinases 2 and 9 and tissue inhibitors of matrix metalloproteinases 2 and 1 in the glomeruli of human glomerular diseases: the results of studies using immunofluorescence, in situ hybridization, and immunoelectron microscopy.	山田 明	内科学(I)
日本透析医会雑誌	血液透析患者における透析前後の循環血液量変動に関する研究	山田 明	内科学(I)
Clin Nephrol	Immunopathologic co-localization of MPO, IgG, and C3 in glomeruli in human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis	山田 明	内科学(I)
Recent Pat Inflamm Allergy Drug Discov	Future treatment for COPD: targeting oxidative stress and its related signal.	和田 裕雄	内科学(I)
BMC Res Notes	The saw-tooth sign as a clinical clue for intrathoracic central airway obstruction.	皿谷 健	内科学(I)
Clin Radiol	Two cases of bilateral bronchial artery varices: one with and one without bilateral coronary-to-pulmonary artery fistulas. Review and characterization of the clinical features of bronchial artery varices reported in Japan.	皿谷 健	内科学(I)
J Thorac Dis	Guillain-Barré syndrome in two patients with respiratory failure and a review of the Japanese literature.	皿谷 健	内科学(I)
J Thorac Dis	High-resolution CT findings of patients with pulmonary nocardiosis	皿谷 健	内科学(I)
Intern Med	Varicella-zoster Virus Pneumonia in an Immunocompetent Patient	皿谷 健	内科学(I)
J Thorac Dis	A case of malignant peritoneal mesothelioma revealed with limitation of PET-CT in the diagnosis of thoracic metastasis	皿谷 健	内科学(I)
Oncologist	High-resolution computed tomography findings for patients with drug-induced pulmonary toxicity, with special reference to hypersensitivity pneumonitis-like patterns in gemcitabine-induced cases	皿谷 健	内科学(I)
Mod Rheumatol	Fluorodeoxyglucose (FDG) uptake in pulmonary rheumatoid nodules diagnosed by video-assisted thoracic surgery lung biopsy: two case reports and a review of the literature	皿谷 健	内科学(I)
Intern Med	Cytomegalovirus pneumonia in a patient with interstitial pneumonia and Nocardia asiatica presenting as cavitary lung lesions	皿谷 健	内科学(I)
J Clin Microbiol	Evidence for reactivation of human herpes virus 6 in generalized lymphadenopathy in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome.	皿谷 健	内科学(I)
Clin Radiol.	Re: Two cases of bilateral bronchial artery varices: One with and one without bilateral coronary-to-pulmonary artery fistulas. Review and characterization of the clinical features of bronchial artery varices reported in Japan. A reply.	皿谷 健	内科学(I)
Int Heart J.	Selective site pacing from the right ventricular mid-septum. Follow-up of lead performance and procedure technique.	柚須悟	内科学(II)

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Journal of Heart Failure	Left ventricular dysfunction due to diffuse multiple vessel coronary artery spasm can be concealed in dilated cardiomyopathy	伊波 巧	内科学(Ⅱ)
European Journal of Heart Failure	Left ventricular dysfunction due to diffuse multiple vessel coronary artery spasm can be concealed in dilated cardiomyopathy	伊波 巧	内科学(Ⅱ)
Cardiology	Sorafenib is effective in the treatment of pulmonary veno-occlusive disease	片岡 雅晴	内科学(Ⅱ)
Ann Noninvasive Electrocardiol.	Risk stratification for serious arrhythmic events using nonsustained ventricular tachycardia and heart rate turbulence detected by 24-hour holter electrocardiograms in patients with left ventricular dysfunction.	三輪 陽介	内科学(Ⅱ)
Circ J.	Simultaneous assessment of T-wave alternans and heart rate turbulence on holter electrocardiograms as predictors for serious cardiac events in patients after myocardial infarction.	星田 京子	内科学(Ⅱ)
Circ J.	T-wave alternans and heart rate turbulence in patients after myocardial infarction- reply.	星田 京子	内科学(Ⅱ)
Circ J.	Independent and complementary utility of ambulatory electrocardiogram-based T-wave alternans and heart rate turbulence for predicting major cardiac events in patients after myocardial infarction- reply.	星田 京子	内科学(Ⅱ)
日本ヘリコバクター学会誌 14(1):2-6,2012.	H. pylori除菌後胃癌について除菌後10年以上経過後に診断された胃癌例の検討 -東京都内多施設共同調査-	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
Digestion 86(2):136-146, 2012.	Questionnaire-Based Survey Conducted in 2011 concerning Endoscopic Management of Barrett's Esophagus in East Asian Countries.	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
Diagnostic and Therapeutic Endoscopy 12: 80, 2012.	Consensus of the present and prospects on endoscopic diagnosis and treatment in East Asian Countries.	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
Gastrointestinal Endoscopy: 76(6): 1247,2012.	Gastric mucosal longitudinal tears after drowning.	蓮江 智彦	内科学(Ⅲ)
Cancer Chemother Pharmacol.	Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
HPB (Oxford).	Effect of biliary drainage on chemotherapy in patients with biliary tract cancer: an exploratory analysis of the BT22 study.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Hepatol Res.	Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of Hepatocellular Carcinoma 2010 update.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
J Hepatobiliary Pancreat Sci.	Role of chemotherapy in treatments for biliary tract cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Clin Cancer Res.	Phase I trial of glypican-3-derived peptide vaccine for advanced hepatocellular carcinoma showed immunological evidence and potential for improving overall survival.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Int J Clin Pract.	First interim analysis of the GIDEON (Global Investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma and of its treatment with sorafenib) non-interventional study.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Clin Drug Investig.	Current status of hepatocellular carcinoma treatment in Japan: case study and discussion-voting system.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol.	Everolimus for advanced pancreatic neuroendocrine tumours: a subgroup analysis evaluating Japanese patients in the RADIANT-3 trial.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Jpn J Clin Oncol.	Clinical Outcome of Biliary Drainage for Obstructive Jaundice Caused by Colorectal and Gastric Cancers.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Jpn J Clin Oncol.	The Hepatobiliary and Pancreatic Oncology (HBPO) Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): History and Future Direction.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	A Multicenter Phase II Trial of S-1 With Concurrent Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Oncologist.	High-Resolution Computed Tomography Findings for Patients With Drug-Induced Pulmonary Toxicity, With Special Reference to Hypersensitivity Pneumonitis-Like Patterns in Gemcitabine-Induced Cases.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
膵臓	生活習慣と膵疾患. 膵癌のリスクファクターとしての糖尿病. 効率的な膵癌スクリーニングを目指して.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Oncology.	A phase I study of infusional 5-fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin and irinotecan in Japanese patients with advanced colorectal cancer who harbor UGT1A1*1/*1,*1/*6 or *1/*28.	長島 文夫	内科学(腫瘍科)
癌と化学療法	Modified FOLFOX6 (mFOLFOX6)療法中に可逆性後白質脳症(RPLS)を来した1例	長島 文夫	内科学(腫瘍科)
癌と化学療法	Liver, Pancreas, Biliary Tract Cancer 肝・胆・膵癌-胆道癌治療の新展開. IV. 切除不能進行胆道がんの化学療法の進歩	春日 章良	内科学(腫瘍科)
Gastric Cancer.	Simultaneous endoscopic submucosal dissection for synchronous double early gastric cancer.	春日 章良	内科学(腫瘍科)
J Gastroenterol Hepatol.	Treatment strategy for rectal carcinoids: a clinicopathological analysis of 229 cases at a single cancer institution.	春日 章良	内科学(腫瘍科)
Eur J Gastroenterol Hepatol	A transcatheter arterial chemotherapy using a novel lipophilic platinum derivative (miriplatin) for patients with small and multiple hepatocellular carcinomas.	春日 章良	内科学(腫瘍科)
Dig Endosc.	Clinical characterization of gastric lesions initially diagnosed as low-grade adenomas on forceps biopsy.	春日 章良	内科学(腫瘍科)
Geriatr Gerontol Int	Long-term multiple risk factor interventions in Japanese elderly diabetic patients: The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial-study design, baseline characteristics and effects of intervention	神崎 恒一	高齢医学
Geriatr Gerontol Int	Non-high-density lipoprotein cholesterol: an important predictor of stroke and diabetes-related mortality in Japanese elderly diabetic patients	神崎 恒一	高齢医学
J Am Geriatr Soc	Relationship between testosterone and cognitive function in elderly men with dementia	神崎 恒一	高齢医学
Geriatr Gerontol Int	New dorsiflexion measure device: A simple method to assess fall risks in the elderly	神崎 恒一	高齢医学
日本老年医学会雑誌	突発性正常圧水頭症とアルツハイマー型認知症の定量的画像指標の比較	神崎 恒一	高齢医学

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本老年医学会雑誌	高齢者の耳掃除と高齢者総合的機能評価	神崎 恒一	高齢医学
臨床精神薬理	統合失調症におけるShared Decision Makingの実現可能性—アドヒアランスからコンコーダンスへ—	渡邊 衡一郎	精神神経科学
精神神経学雑誌	経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療と脳機能画像.	鬼頭 伸輔	精神神経科学
Brain Stimulation	Cerebral blood flow ratio of the dorsolateral prefrontal cortex to the ventromedial prefrontal cortex as a potential predictor of treatment response to transcranial magnetic stimulation in depression	鬼頭 伸輔	精神神経科学
精神神経学雑誌	右前頭前野への低頻度経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療と抗うつ機序.	鬼頭 伸輔	精神神経科学
Cell Cycle	The struggle for energy in podocytes leads to nephrotic syndrome.	楊 國昌	小児科学
Diabetologia	Urinary podocalyxin is an early marker for podocyte injury in patients with diabetes; establishment of a highly sensitive ELISA to detect urinary podocalyxin	楊 國昌	小児科学
Cancer Sci	Outcomes of Japanese breast cancer patients treated with pre- and post-operative anastrozole or tamoxifen.	井本 滋	外科学
Breast Cancer	Paradigm shift in axilla surgery for breast cancer patients treated with sentinel node biopsy	井本 滋	外科学
J Natl Cancer Inst	International Multicenter Tool to Predict the Risk of Nonsentinel Node Metastases in Breast Cancer	井本 滋	外科学
Diagnostic Cytopathology	Immediate cytology improves accuracy and decreases complication rate in real-time computed tomography-guided needle lung biopsy	橋 啓盛	外科学
Pediatrics international	Problems with and improvements for triaging pediatric surgery patients.	浮山 越史	小児外科学
Pediatrics international	Japanese guidelines for the management of intussusception in children	浮山 越史	小児外科学
BRAIN and NERVE64(5);537548	神経膠種の遺伝子異常とバイオマーカー	永根 基雄	脳神経外科学
Jpn J Clin Oncol 42(10)	phase II study of single-agent bevacizumab in Japanese patients with recurrent malignant glioma.	永根 基雄	脳神経外科学
J Clin Oncol, published online	Predictive significance of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab: preliminary report	永根 基雄	脳神経外科学
脳卒中の外科40	血行動態介入による脳動脈瘤の血行力学的治療-3症例の検討と文献的考察	香山 英徳	脳神経外科学
脳卒中の外科40	患者満足度の観点からみた未破裂脳動脈瘤治療適応の個別的決定に関する因子の検討	鳥居 正剛	脳神経外科学

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cardiothoracic Surgery	Equine pericardial roll graft replacement of infected pseudoaneurysm of the aortic arch	窪田 博	脳神経外科学
Journal of Cardiothoracic Surgery	Equine pericardial roll graft replacement of infected pseudoaneurysm of the ascending aorta	窪田 博	脳神経外科学
心臓	深田論文に対するEditorial Comment	窪田 博	脳神経外科学
The journal of thoracic and cardiovascular surgery	Clinical efficacy of intermittent pressure augmented-retrograde cerebral perfusion	遠藤 英仁	心臓血管外科学
Journal of Orthopaedic Science	Ligamentum flavum hematoma in the lumbar spine.	高橋 雅人	整形外科
Chem Immunol Allergy	Fixed drug eruption: the dark side of activation of intraepidermal CD8+ T cells uniquely specialized to mediate protective immunity.	塩原 哲夫	皮膚科学
Expert Rev.Dermatol	Drug-induced hypersensitivity syndrome: recent advances in drug allergy.	塩原 哲夫	皮膚科学
日内会誌	内科医に必要な薬剤アレルギーの知識－重症型を中心に	狩野 葉子	皮膚科学
Dermatology	Detection of varicella-zoster virus antigens in lesional skin of zosteriform lichen planus but not in that of linear lichen planus.	水川 良子	皮膚科学
J Am Acad Dermatol	A syringotropic variant of cutaneous sarcoidosis-Presentation of three cases exhibiting defective sweating responses-	早川 順	皮膚科学
Acta Derm Venereol	Osteonecrosis of the femoral head in a patient with Henoch-Schönlein purpura and drug-induced hypersensitivity syndrome treated with corticosteroids.	平原 和久	皮膚科学
Am J Med	Human herpesvirus 6 reactivation in drug-induced hypersensitivity syndrome and DRESS validation score.	牛込 悠紀子	皮膚科学
J Am Acad Dermatol	Short-and long-term outcomes of 34 patients with drug-induced hypersensitivity syndrome in a single institution.	牛込 悠紀子	皮膚科学
Plastic and Reconstructive Surgery	Mammographic changes after fat transfer to the breast compared with changes after breast reduction: a blinded study	波利井 清紀	形成外科学
Journal of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery	Fifteen-year survey of one-stage latissimus dorsi muscle transfer for treatment of longstanding facial paralysis.	多久嶋 亮彦	形成外科学
形成外科	顔面の陥凹瘢痕に対するトレチノインを併用した炭酸ガスレーザー治療	尾崎 峰	形成外科学
American Journal of Cosmetic Surgery	The latest advance in hair regeneration therapy using proteins secreted by adipose-derived stem cells.	菅 浩隆	形成外科学
Plastic and Reconstructive Surgery	The fate of adipocytes after non-vascularized fat grafting: Evidence of early death and replacement of adipocytes.	江藤 ひとみ	形成外科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plastic and Reconstructive Surgery	Intradermal injection of normal saline prevents cutaneous complications associated with sclerotherapy for superficial venous malformations.	栗田 昌和	形成外科学
Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery	Detrimental influences of intraluminally-administered sclerotic agents on surrounding tissues and peripheral nerves: an experimental study.	栗田 昌和	形成外科学
Connective Tissue Research	Differential expression of wound fibrotic factors between facial and trunk dermal fibroblasts.	栗田 昌和	形成外科学
形成外科	切断指再接着術後に発症した複合性局所疼痛症候群の3例.	栗田 昌和	形成外科学
Journal of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery	Recycle of temporal muscle in combination with free muscle transfer in the treatment of facial paralysis.	栗田 昌和	形成外科学
形成外科	QスイッチNd:YAGレーザーによるアートメイク除去の経験.	栗田 昌和	形成外科学
形成外科	手掌に生じた異所性蒙古斑に対してQスイッチNd:YAGレーザー治療を行った1例	栗田 昌和	形成外科学
Clin Exp Nephrol	Renal disease progression in autosomal dominant polycystic kidney disease.	東原 英二	泌尿器科学
N Engl J Med	Tolvaptan in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease.	東原 英二	泌尿器科学
Surg Endosc	Evaluation of 2,590 urological laparoscopic surgeries undertaken by urological surgeons accredited by an endoscopic surgical skill qualification system in urological laparoscopy in Japan.	奴田原 紀久雄	泌尿器科学
日本女性骨盤底医学会誌	メッシュ使用の経膈的骨盤臓器脱修復術における、下部尿路症状、精神症状の変化.	奴田原 紀久雄	泌尿器科学
日本泌尿器科学会雑誌	血清VEGF(Vascular Endothelial Growth Factor)による腎細胞癌術後再発の予測.	奴田原 紀久雄	泌尿器科学
Int J Urol	Initial operative experience of single-port retroperitoneal laparoscopic nephrectomy.	桶川 隆嗣	泌尿器科学
Asian J Endosc Surg	Retroperitoneal laparoscopic single-site nephroureterectomy: Initial operative experience.	桶川 隆嗣	泌尿器科学
Archive of Ophthalmology	Ocular Behcet's Disease Research Group of Japan. Multicenter study of infliximab for refractory uveoretinitis in Behcet's disease.	岡田アナベルあやめ	眼科学
Ocul Immunol Inflamm	Diagnosis/Classification Criteria and Severity Grading in Behcet's Disease.	岡田アナベルあやめ	眼科学
Ophthalmology	Vitrectomy without laser treatment or gas tamponade for macular detachment associated with an optic disc pit.	平形 明人	眼科学
日本医師会雑誌	白内障の症状と手術適応	永本 敏之	眼科学



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Ophthalmol	Quality of image of grating target placed in model eye and observed through toric intraocular lenses.	井上 真	眼科学
日本の眼科	強膜炎の薬物療法	慶野 博	眼科学
Ophthalmology	Correlation between Length of Foveal Cone Outer Segment Tips Line Defect and Visual Acuity after Macular Hole Closure.	伊東 裕二	眼科学
眼科手術	膨化MIRAgelが眼内に嵌入した1例	伊東 裕二	眼科学
Acta Ophthalmol	Bilateral exudative retinal detachment due to retinal pigment epithelial tears successfully treated by vitrectomy and scleral window surgery.	廣田 和成	眼科学
癌と化学療法	シタフロキサシンが著効したビスフォスフォネート関連顎骨壊死(ステージ0)の1例.	池田 哲也	耳鼻咽喉科学
OTOLARYNGOLOGY	Microtubule and Cdc42 are the Main Targets of Docetaxel's Suppression of Invasiveness of Head and Neck Cancer Cells.	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学
Anticancer Research	Feasibility concurrent chemoradiotherapy with S-1 administered on alternate days for elderly patients with head and neck cancer.	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学
日本内科学会 関東地方会誌587	多毛と月経異常を契機に診断された多嚢胞性卵巣症候群に遅発性 $3\beta$ -HSD欠乏症と原発性アルドステロン症を合併した1例	岩下 光利	産科婦人科学
Reproductive Biology and Endocrinology	Subcellular localization of L-selectin ligand in the endometrium implies a novel function for pinopodes in endometrial receptivity	岩下 光利	産科婦人科学
Iran J Reprod Med Vol. 11	Expression of galectin-8 on human endometrium: Molecular and cellular aspects	岩下 光利	産科婦人科学
日本内分泌学会誌88	低酸素のインスリン様成長因子-I(IGF-I)の作用におよぼす影響.	酒井 啓治	産科婦人科学
日本内分泌学会雑誌1	低酸素のインスリン様成長因子-I(IGF-I)の作用におよぼす影響	酒井 啓治	産科婦人科学
日産婦新生児血会誌 22	当院におけるフォンダパリヌクスによる周術期の肺血栓塞栓症予防について.	小林 陽一	産科婦人科学
Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 163	The effect of chemotherapy or radiotherapy on thymidine phosphorylase and dihydropyrimidine dehydrogenase expression in cancer of the uterine cervix.	小林 陽一	産科婦人科学
Medical Science Digest 39(1)	子宮頸癌における最近の話題	小林 陽一	産科婦人科学
日本生殖医学会誌 57	不妊治療特異的な異常初期妊娠の超音波診断について	橋場 剛士	産科婦人科学
日本生殖医学会誌 57(4)	稀な先天性Muller管異常症2例に対する生殖外科治療についての考察	橋場 剛士	産科婦人科学

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
東京産婦会誌61(1)	急速にgiant umbilical cordに進行した臍帯嚢胞の1例.	谷垣 伸治	産科婦人科学
臨検 56(7)	胎児超音波スクリーニングのポイント	谷垣 伸治	産科婦人科学
臨婦産 66(9)	前置胎盤と癒着胎盤-ワンランク上の診断と治療, 癒着胎盤の診断, 超音波による診断.	谷垣 伸治	産科婦人科学
産と婦 79(9)	イラストでみる産婦人科診療(第6回), 胎児心臓の超音波検査-スクリーニング-	谷垣 伸治	産科婦人科学
産と婦78	癒着胎盤に対する帝王切開術	谷垣 伸治	産科婦人科学
東京産婦会誌61	内膜症性嚢胞が妊娠中に脱落膜変化を呈した2例	谷垣 伸治	産科婦人科学
助産師 67(2)	いまさら聞けないシリーズ, その5, GBSについて	谷垣 伸治	産科婦人科学
東京産婦会誌 61	当院における妊婦健康診査受診不良妊婦の周産期事象に関する検討.	井澤 朋子	産科婦人科学
東京産婦会誌 61(2)	卵巣腫瘍と鑑別を要した盲腸癌の1例.	百村 麻衣	産科婦人科学
東京産婦会誌 62(1)	OHSS様症状を呈したFSH産生下垂体腺腫の1例.	百村 麻衣	産科婦人科学
杏林医学会誌 43(4):	子宮鏡下手術にて診断された子宮内膜間質腫瘍の1例	澁谷 裕美	産科婦人科学
Journal of Magnetic Resonance Imaging	Postoperative evaluation of superficial temporal artery-middle cerebral artery bypass using an MR angiography technique with combined white-blood and black-blood sequences.	土屋 一洋	放射線医学
J.Kyorin Med. Soc	Effect of artificial structures on postoperative irradiation therapy -Skull reconstruction case--,	戸成 綾子	放射線医学
Japanese Journal of Diagnostic Imaging	Pulmonary volumetric analysis based on three-dimensional computed tomography (3D-CT) compared with pulmonary function test	平岡 祥幸	放射線医学
杏林医学会誌	杏林大学病院がんセンターでの緩和医療(総説/特集)	窪田 靖志	麻酔科学
日本臨床麻酔学会誌	側臥位で施行される腹腔鏡下手術における高頻度な術後無気肺の発生	森山 潔	麻酔科学
Neuroscience letter	FRET based evaluation of Bid cleavage in a single primary cultured neuron.	中澤 春政	麻酔科学
The Journal of maternal-fetal & neonatal medicine	Success rate and challenges of fetal anesthesia for ultrasound guided fetal intervention by maternal opioid and benzodiazepine administration.	大橋 夕樹	麻酔科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
体液・代謝管理	正期産健康常新生児における臍帯血イオン化マグネシウム値と添加ヘパリンによる差異	本保 晃	麻酔科学
Emerging Infectious Diseases	Mycobacterium kyorinense infection	大西 宏明	臨床検査医学
人間ドック	Clinical efficacy of a telemedicine program for lifestyle modification involving self-monitoring of health status, and patient compliance with it.	本間 聡起	総合医療学
医療情報学	遠隔診察(テレケア)において適用可能な疾患の抽出と疾患別に必要なシステムの構成要素—慢性疾患と急性発症の疾患への対応の可否。	本間 聡起	総合医療学
遠隔医療学会誌	健康指標のテレモニタリングに伴う指導介入法に関する比較研究—試験開始時の対象の背景因子と運用法についての中間報告。	本間 聡起	総合医療学
総合リハビリテーション40巻	A型ボツリヌス毒素治療における小型筋電・神経刺激装置CHB-101の紹介	高橋 秀寿	リハビリテーション医学
J Phys Ther Sci 24巻	Changes in electromyographic activity after conditioning contraction.	高橋 秀寿	リハビリテーション医学
日本熱傷学会雑誌39巻	熱傷専門施設におけるリハビリテーション—重症熱傷に対するリハビリテーションの早期介入と継続の必要性—	高橋 秀寿	リハビリテーション医学

計 152

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 甲能 直幸
管理担当者氏名	医療安全管理部長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、事務部長 山崎 昭、野尻 一之 副部長 高戸谷 繁通、庶務課長 天良 功 医事課長 田中 長文、高戸谷 繁通(兼務)、薬剤部長 永井 茂、篠原 高雄 診療情報管理室長 奴田原 紀久雄、検査部長 渡邊 卓、放射線部長 似鳥 俊明 検査部技師長 大藤 弥穂、放射線技師長 大戸 真喜男 医学部事務部 部長 黒田 雅夫

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		関係各部署	入院、外来等については、 一患者一ファイル方式とし、 管理している その他諸記録は個別に電子・ 紙媒体にて管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	担当部門、診療科等において、 コンピュータ又はファイル等 により保管、管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療の提供の実績	地域医療連携室	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 薬剤部	
第一 条に 掲げ る体 制の 確保 の状 況 及 び 第九 条の 二十三 第一 項	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	医療安全管理・院内感染対策 とともに、専任者の配置・部門の 設置・指針の整備及び策定・相 談体制は、業務遂行のための基 本体制の整備事項として分類 し、当該マニュアルに記載の 上、毎年更新している。 同様に、委員会の開催状況・ 研修の実施状況・改善方策の実 施状況は、運用確認事項として 分類し、それぞれの専用ファイ ルで管理している。
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		感染症の発症状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	薬 剤 部	担当部門において、コンピュータ又はファイル等により保管、管理している。
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬 剤 部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬 剤 部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬 剤 部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病 院 管 理 部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨 床 工 学 室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨 床 工 学 室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨 床 工 学 室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 甲能直幸
閲覧担当者氏名	医療安全管理室長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、事務部長 山崎 昭、野尻 一之 副部長 高戸谷 繁通、庶務課長 天良 功 医事課長 田中 長文、高戸谷 繁通(兼務)、薬剤部長 永井 茂、篠原 高雄 診療情報管理室長 奴田原 紀久雄、検査部長 渡邊 卓、放射線部長 似鳥 俊明 検査部技師長 大藤 弥穂、放射線技師長 大戸 真喜男 医学部事務部 部長 黒田 雅夫
閲覧の求めに応じる場所	事務部 応接室、病院庶務課 事務室 他

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する

紹介率	55.2%	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	21,045 人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,101 人	
	C : 救急用自動車	4,826 人	
	D : 初診の患者の数	57,497 人	

(様式 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・指針の主な内容： 医療安全管理の基本的考え方。リスクマネジメント委員会、医療安全管理部の主な役割、医療安全管理のための職員研修実施の基本方針。事故発生後の対応方針。 医療従事者と患者及びその家族等との情報共有の基本方針、他。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・活動の主な内容： インシデント事例等の原因分析、改善策立案及び職員への周知。リスクマネジメント委員会で立案した改善策の実施状況調査と見直し。職員研修の企画・実施。 (平成 2 4 年度活動例) ; 動脈カテーテル手技における穿刺・止血マニュアルの改訂、輸血療法マニュアルの改訂、輸血に関する説明書・同意書の変更、手術安全管理マニュアルの改訂、手術安全チェックリストの導入、看護師が行う採血の取り決めの改訂、当院における PTP シートの取り扱いの改訂、ネームバンドの運用の改訂、転倒・転落発生時の対応フローチャートの改訂、脳卒中リスク評価のスクリーニングシートの導入、患者用医療安全レターの配布開始	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 3 回
・研修の主な内容： 医療安全管理に関する基本的な考え方と具体的方策及び職員の責務、当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策等 (平成 2 4 年度実施例) ; リスクマネジメントの基本、医薬品・医療機器の安全使用について、MRI 実施時の注意点、クリニカルパスと医療安全、インシデント事例の現状と教訓・改善、電子カルテと医療安全、他	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ) ・その他の改善のための方策の主な内容： 専任リスクマネージャー・各部署リスクマネージャーの職場巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、インシデントレポートの検討・改善策の立案、院内広報誌での改善策の周知徹底、e-ラーニングによる理解度の確認及び評価、医療安全情報（医療機能評価機構）等の伝達、学内 LAN への重要な決定事項の掲載、他。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ( 2 名 ) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ( 3 名 ) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・無
・所属職員： 専任 ( 1 1 ) 名 兼任 ( 2 8 ) 名 ・活動の主な内容： リスクマネジメント委員会で用いられる資料、議事録の作成・保存及び委員会の庶務。事故等に関する診療録・看護記録等の記載内容確認及び指導。事故発生時の患者等への対応状況の確認及び指導。事故等の原因究明の適切な実施の確認及び指導。医療安全に関する連絡・調整、他。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容： 院内感染防止対策に関する基本的考え方。院内感染防止委員会・ICTの役割。 院内感染防止対策のための職員研修実施の基本方針。院内感染発生時の報告と対策に対する基本方針。指針改定及び閲覧に関する基本方針。他</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容： 重大な院内感染発生時の原因分析、改善策立案及び職員への周知、院内感染防止委員会・ICTで立案した改善策・指導の実施状況調査と見直し。職員研修の企画実施。  (平成24年度活動例) 各種マニュアルの改訂、耐性菌新規検出患者の予備調査による全例のラウンド開始 ペン型インスリン注射器の安全機能付き注射針の導入、他</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 院内感染防止に関する基本的な考え方。感染症発生時の対応方法。当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策。 (平成24年実施例) 感染に関する最近の事例、職業感染の恐怖と対策、針刺し等血液曝露の脅威、院内感染と結核、多剤耐性菌の脅威、当院における手指衛生とMRSA検出に関する動向、インフルエンザ対策、他</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： ICT、ICMの病棟巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、e-ラーニングによる理解度の確認及び評価、学内LANへの重要な決定事項の掲載、インフェクションコントロールマネージャー(各部署の院内感染担当者)を通じた決定事項の伝達と評価</li></ul>	



**医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置**

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメント講習会 「医薬品の安全管理について」 インシデント事例の報告</li> <li>・ 医療安全管理セミナー 「インスリン注射の選択・薬剤管理と投与方法について」</li> <li>・ 医療安全管理セミナー 「抗菌薬使用の注意点」</li> <li>・ 看護師が行う静脈注射 「薬剤の基礎知識について」</li> <li>・ 研修医オリエンテーション 「処方せんの記載方法について」</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)・無</li> <li>・ 業務の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">手順書に基づく業務の実施状況については、「実施確認チェック表」を使用して部署別リスクマネージャーが実施確認を行い、それを医薬品安全管理責任者が確認し、問題がある場合は個別に対応して手順書に基づく業務の実施について周知している。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T Pシート誤飲防止に向けて、昨年度「当院における P T Pシートの取り扱い」を作成し周知を行ったが、不十分な箇所があったため追加、修正を行い改訂した。</li> <li>・ 抗凝固薬など手術前の休薬期間が必要な医薬品の目安について、改訂版を作成し周知した。</li> <li>・ 厚労省からの「内服薬処方せんの記載方法の標準化に向けた取り組みについて」、当院では2月から電子カルテシステムを導入して処方オーダーを1回量併記の処方に変更し、最近の動向と今後の課題について説明した。</li> </ul> </li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器の説明及び、使用方法について (特定医療機器に関して年2回以上の計画をたて、それに沿って行っている)</li><li>(特定医療機器：人工呼吸器・血液浄化器・除細動器・閉鎖式保育器 など)</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 (○・無)</li><li>・ 保守点検の主な内容： 機器毎の保守点検マニュアルに沿って、日常点検及び定期点検</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 添付文書・取扱説明書等は、臨床工学室で担当者を決めて保管・管理を行う</li><li>・ 安全性情報等は臨床工学室で情報収集し、医療安全管理部と連携する。</li><li>・ 医療機器の不具合情報を入手した場合は速やかに関連部署に連絡し医療機器安全管理責任者・医療機器管理委員会・医療安全管理部に連絡し必要な対応を行う。</li></ul></li></ul>	